

腸骨動脈病変における生体吸収性末梢血管用ステント留置後の予後調査に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター一般消化器外科では、「腸骨動脈病変における生体吸収性末梢血管用ステント留置後の予後調査」に参加することになりました。

この研究の目的は、下肢閉塞性動脈硬化症に対する生体吸収性ステントの有効性及び安全絵師を評価した REMEDY 治験にご協力をいただいた患者さんの治療結果を調べて、生体吸収性ステントの成績を明らかにすることです。

この研究のため、2012年10月1日より2016年4月28日までに治療した方の診療録の調査を行います。対象となるのは REMEDY 治験にご協力をいただき、腸骨動脈狭窄または閉塞に対して生体吸収性ステントを留置する治療を行った方で、調査項目は個人情報を含まない医学的な情報（ステント開存の有無、合併症、再治療の有無、予後など）のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。

調査したデータは本研究の代表であります慶應義塾大学 一般・消化器外科に E-mail で送付され厳重に管理されます。本研究における他の参加施設情報については別紙（裏面）をご覧ください。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。

この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2021年9月

研究責任者

東京医療センター 一般消化器外科

関本 康人

連絡先 03-3411-0111(代表)

別紙

多施設共同研究の実施体制（○が研究全体の責任者）

○慶應義塾大学医学部外科学（一般・消化器） 尾原 秀明（准教授）

・川崎市立川崎病院 血管外科 和多田 晋（部長）

・東京歯科大学市川総合病院 血管外科 小野 滋司（医員）

・さいたま市立病院 血管外科 朝見 淳規（部長）

・済生会横浜市東部病院 血管外科 下河原 達也（医長）

・滋賀県立総合病院 循環器内科 岡田 正治（科長）

・横浜市立市民病院 循環器内科 根岸 耕二（科長）